

実務で使える木構造計算講習会

ー重要文化財「高木家」の解析を通じてー
のお知らせ

特定非営利活動法人 伝統木構造の会

当会はこれまでに、「許容応力度計算」や「限界耐力計算」など、構造計算に関わる講習会を複数回主催してきました。これらの講習会に参加された方も多いと思います。講習会では、架構モデルを通じて構造計算の考え方や方法などを学びましたが、実感が伴わないからなのか、実務で使えるほどに習得できたとは言いにくいのが実情ではないでしょうか。

そこで、現存している伝統木造建築物の構造解析を試み、その構造計算書を読みながら計算手順や方法を現物に即して学べる講習会を企画しましたので、取り急ぎお知らせいたします。今回は、国の重要文化財に指定されている奈良県橿原市今井町の「高木家」（下記参照）を取り上げます。

講座では、まず、力の釣合いなどの構造計算の基本事項や伝統木造建築物と現行建築基準法に合致した建物の工法の違いなどについて学習します。次に、建物に加わる力の大きさや流れなどが実感しやすい「許容応力度等計算」による解析手順を複数回にわたって具体的に学習します。また、地震や台風の「水平短期荷重」だけではなく、「鉛直長期荷重」に対する部材寸法の求め方にも言及し、3階建ての架構計画も含みます。法規制自体より原理的理解を重視して、耐力要素（板倉や筋違い）の軸組への組込み方や金物に頼らなくて成り立つ軸組など、多面的な角度から取り上げる所の丈夫で、長持ちし、美しい、現代版伝統木構法の講座です。

さらに、受講者の理解を深めるために、対象建物を含む奈良の伝統木造建築（東大寺・南大門など）の講師の解説付きオプションツアーも視野に入れています。

ぜひ、この機会に講習会にご参加いただき、また、経験を積み重ねて、スキルアップを図ろうではありませんか。

日程：7月開講（予定）以降、月1回、6回連続講座

会場：未定

講師：増田一眞（増田建築構造事務所・伝統木構造の会会長）

募集人数：40名程度（会員・非会員）

※ 参加費や申込み方法等、詳しくは後日お知らせします。



「高木家」外観

重要文化財 高木家住宅修理工事報告書より転載

「高木家」について

今から180年程前、江戸末期の建設と推定されている平入り、通り土間のある2階建ての町家です。通し柱と足固め、差し鴨居等によって構成された架構は、伝統建築そのものですが、東西方向（道に平行方向）に壁はほとんどありません。建築基準法では「耐力壁」不足による既存不適格建築物になるでしょう。この建物は、M7以上の大地震を8回受けてなお、安全に立ち続けています。